

グローバル出荷指数（平成22年基準） について（平成27年Ⅳ期（第4四半期））

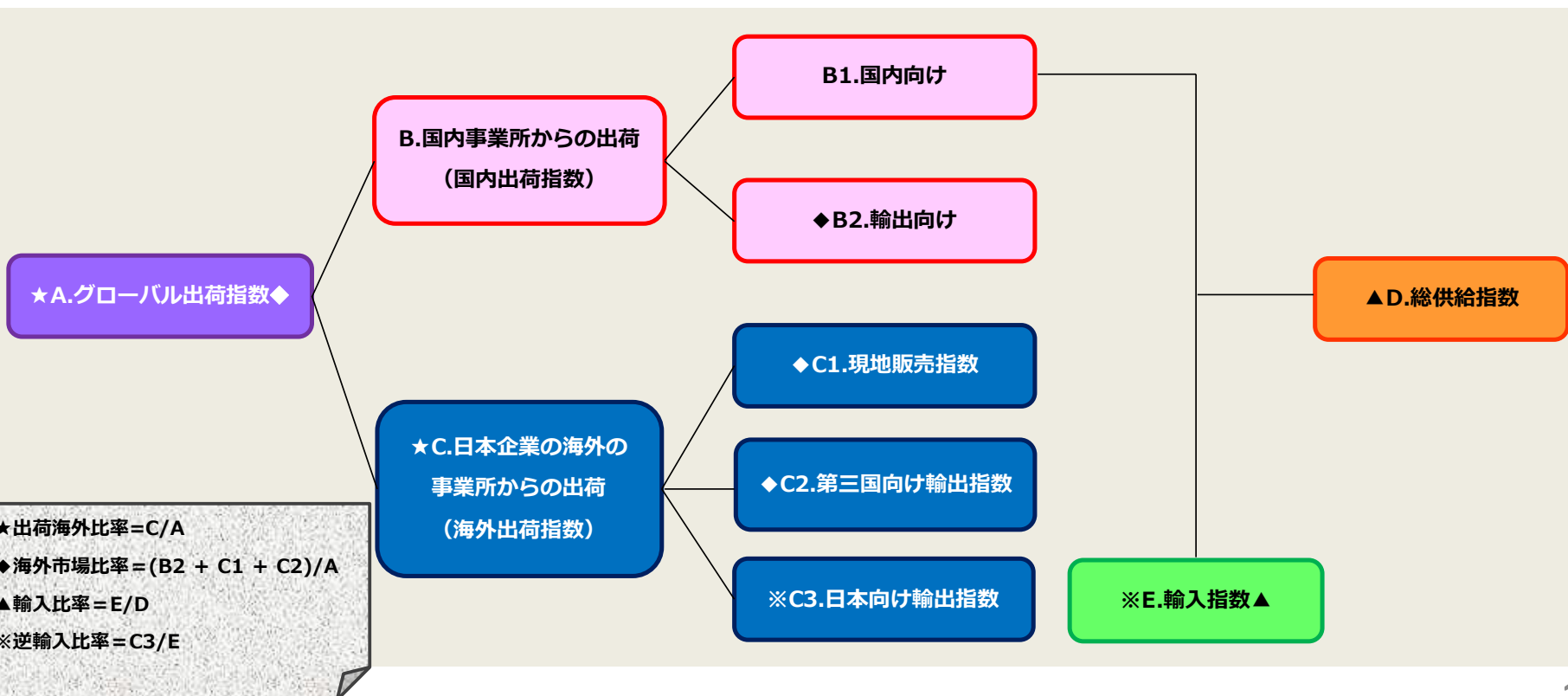
経済解析室
平成28年4月



ミニ経済分析URL: <http://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikeizai-result-1.html>

グローバル出荷指数とは？

- 製造業のグローバル展開を踏まえ、国内外の製造業の生産動向を「業種別」に一元的に捉えようとした指標。
- 製造業の動向を事業所ベースで捉えることとし、「鉱工業出荷内訳表・総供給表」と「海外現地法人四半期調査」の組合せにより、**海外生産（出荷）比率等**を算出している。



製造業グローバル出荷指数（季節調整済）の推移（総括表）

	26年度	27年		
		7～9月期	10～12月期	前期比
グローバル出荷指数	104.1	104.4	104.9	0.5
国内出荷指数	97.6	96.7	96.8	0.1
国内向け	97.0	96.2	96.6	0.4
輸出向け	100.0	99.8	97.4	▲ 2.4
海外出荷指数	124.4	128.6	130.5	1.5

注1) 27年度の各四半期の結果については季節調整済指数、26年度の結果については原指数。

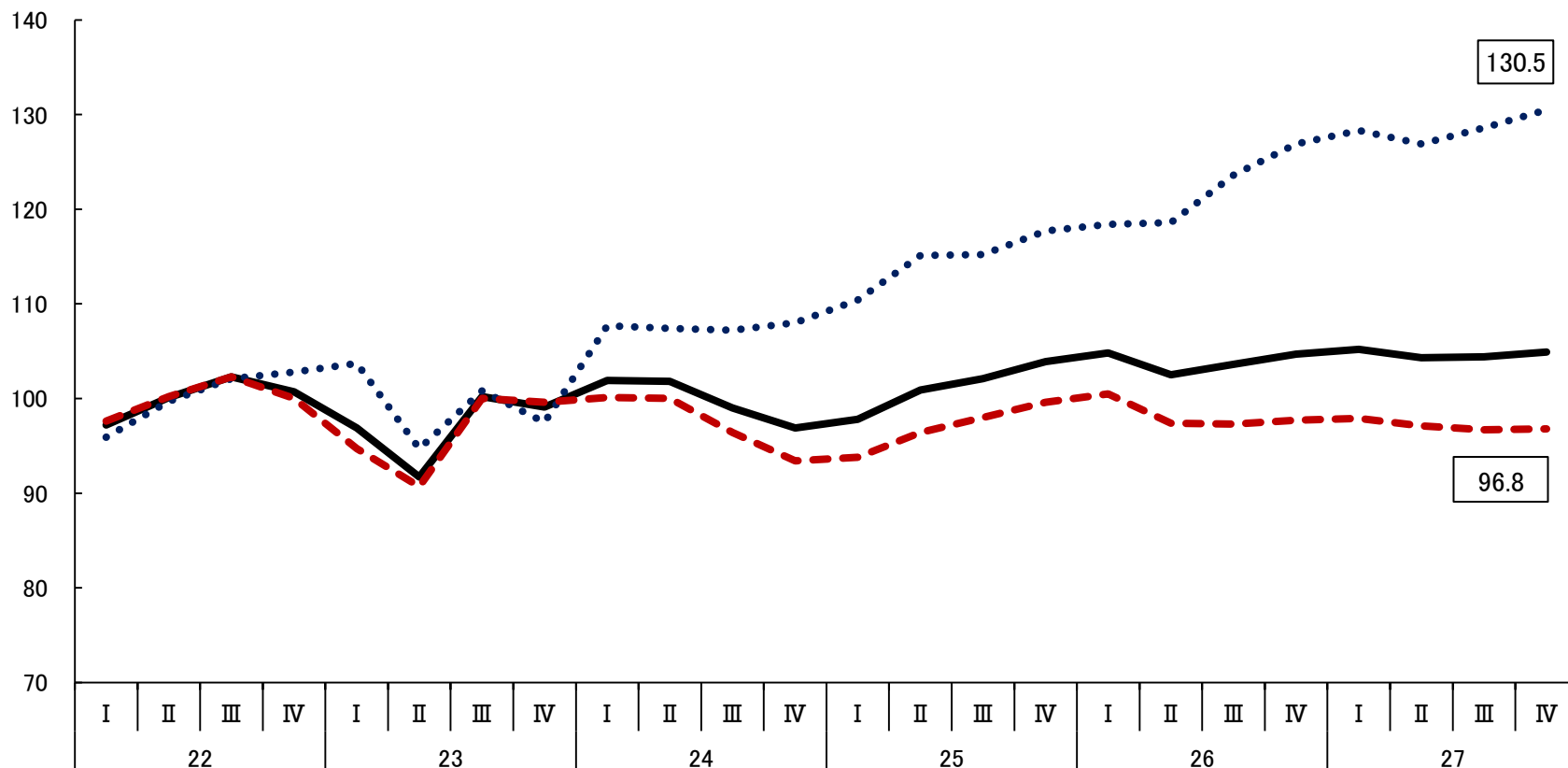
注2) 国内出荷指数は、「鉱業」を含まない「製造工業」の出荷指数。

製造業グローバル出荷指数（季節調整済）の推移

27年Ⅳ期の製造業グローバル出荷指数（季節調整済）は、104.9。
海外出荷指数は130.5、国内出荷指数は96.8となった。
海外出荷は、引き続き上昇トレンド。国内出荷は、26年Ⅱ期以降横ばいで推移。

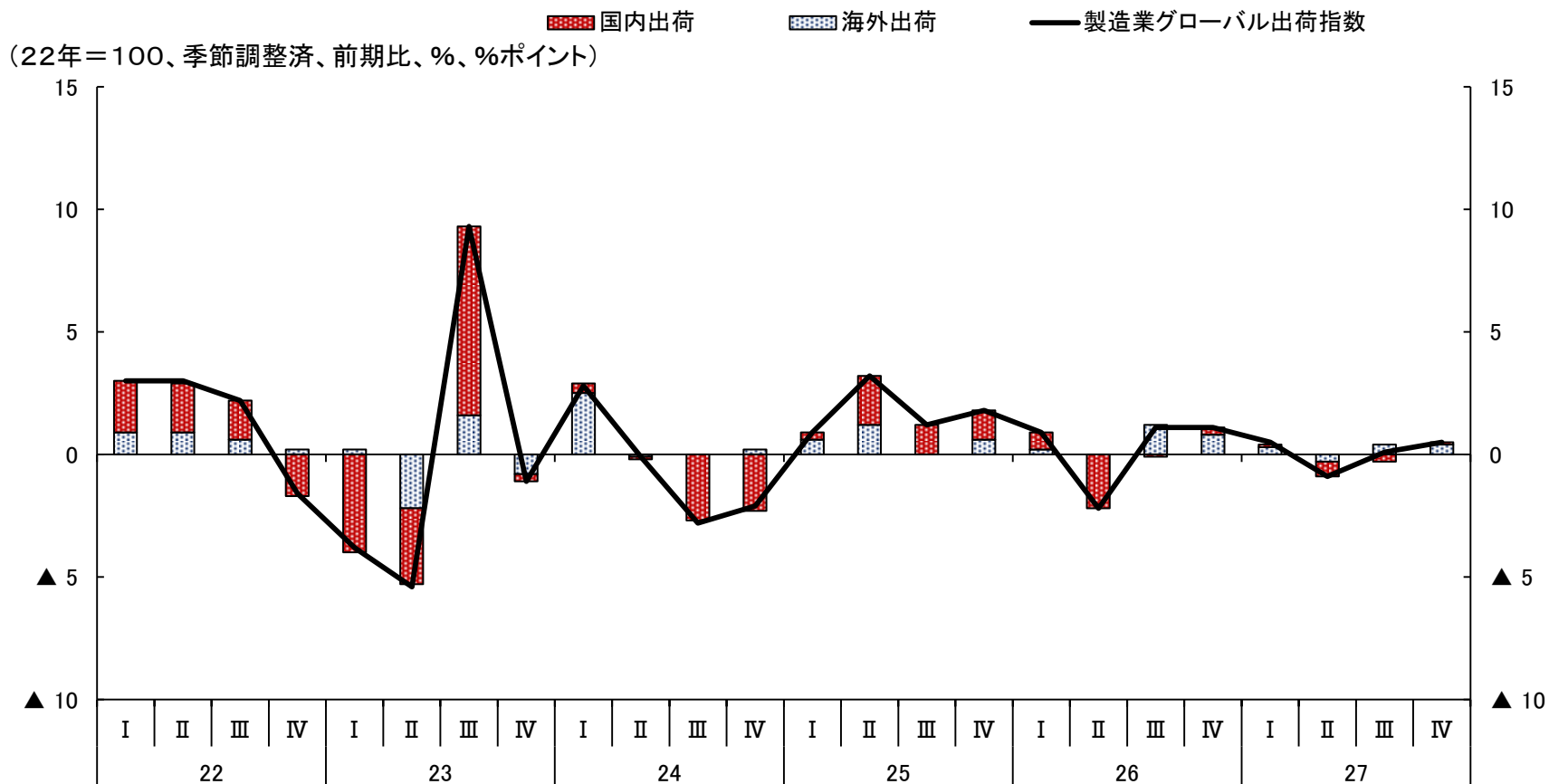
(22年=100、季節調整済)

— 製造業グローバル出荷指数 ●●●● 海外出荷 - - - 国内出荷



製造業グローバル出荷指数（季節調整済）の推移（前期比、内外寄与度）

27年Ⅳ期の製造業グローバル出荷指数は、前期比0.5%と2期連続上昇。海外出荷指数は、同1.5%上昇。国内出荷指数は、同0.1%上昇。海外出荷は2期連続で同0.4%上昇寄与。国内出荷も3期ぶり同0.1%上昇寄与。27年はグローバル出荷全体としては、あまり動きのない1年だった。



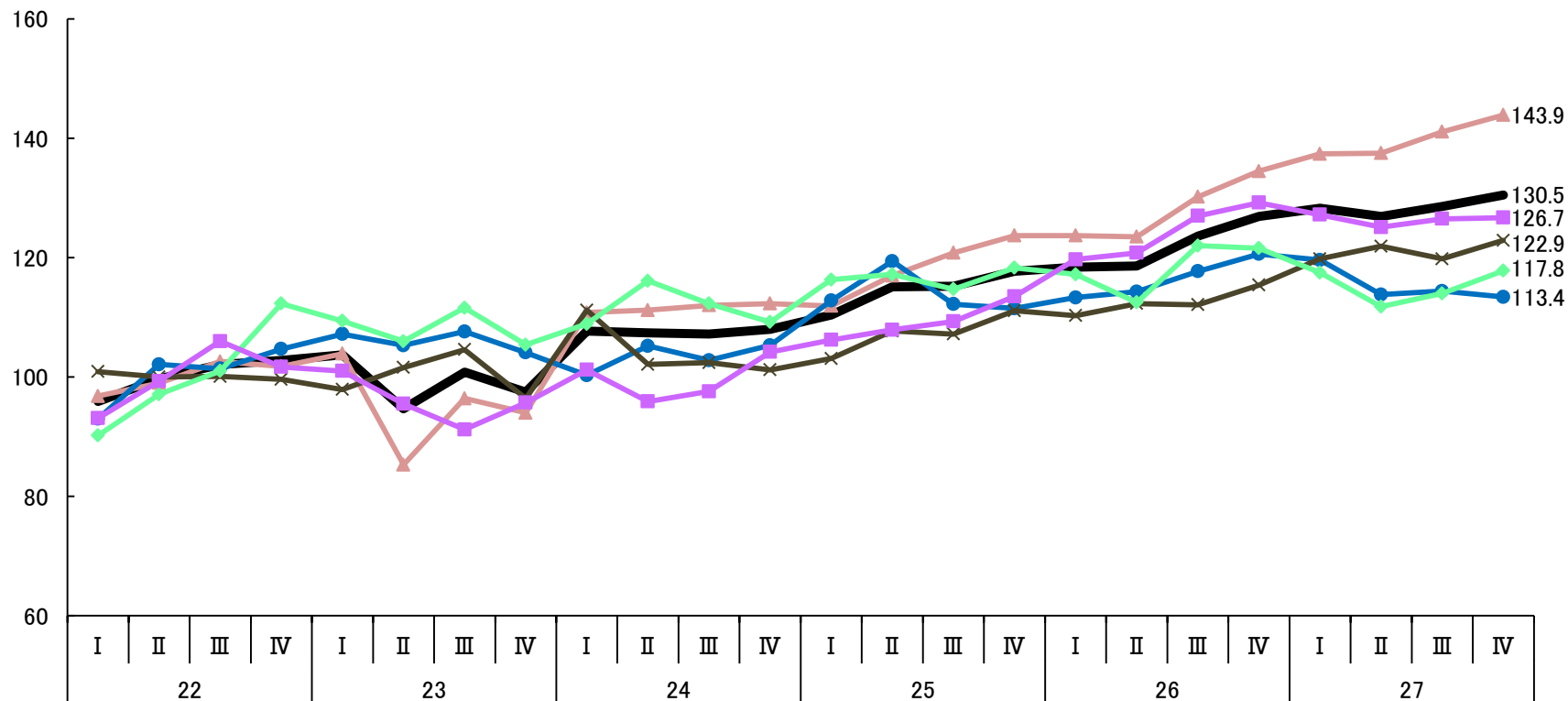
海外出荷指数（季節調整済）の推移（業種別）

主要業種のうち、前期比で上昇したのは、輸送機械工業（前期比2.0%上昇）とはん用・生産用・業務用機械工業（同3.3%上昇）。化学工業は、横ばいで、電気機械工業は前期比▲0.9%低下となった。

27年を通じ、輸送機械工業の海外出荷が、全体の動きに比べて顕著に上昇。

—●— 全業種
 —▲— 輸送機械
 —●— 電気機械
 —×— それ以外の業種計
 —◇— はん用・生産用・業務用機械
 —■— 化学

（22年=100、季節調整済）

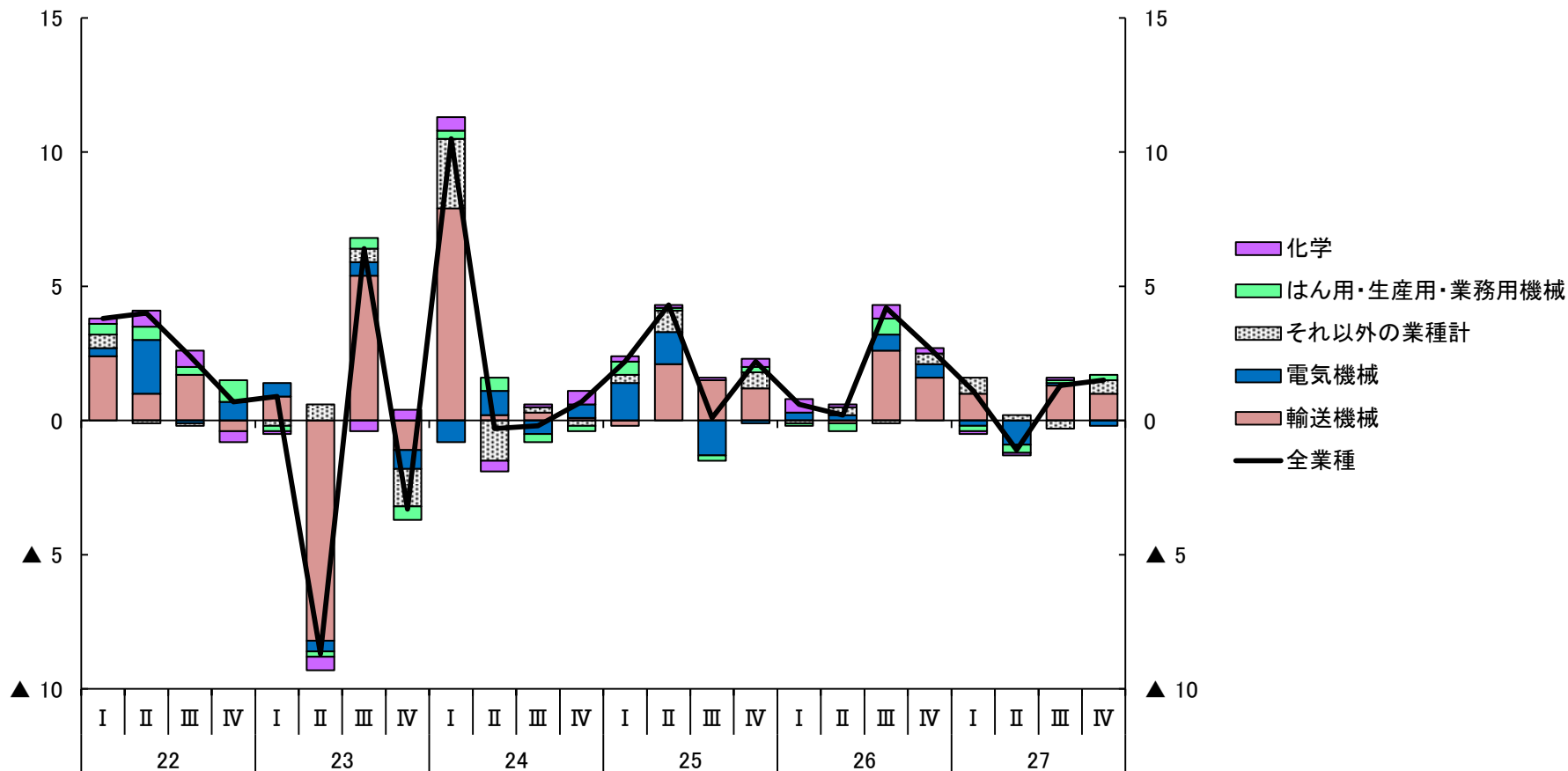


※業種の内容については、スライド21の「用語の説明」を参照のこと。

海外出荷指数の推移（前期比、業種別寄与度）

海外出荷指数の前期比上昇に対し、やはり輸送機械が大きく寄与。
 海外出荷全体の前期比1.5%に対し、輸送機械の前期比寄与が1.0%。
 他方、低下寄与が大きかったのが、電気機械工業。

（22年=100、季節調整済、前期比、%、%ポイント）



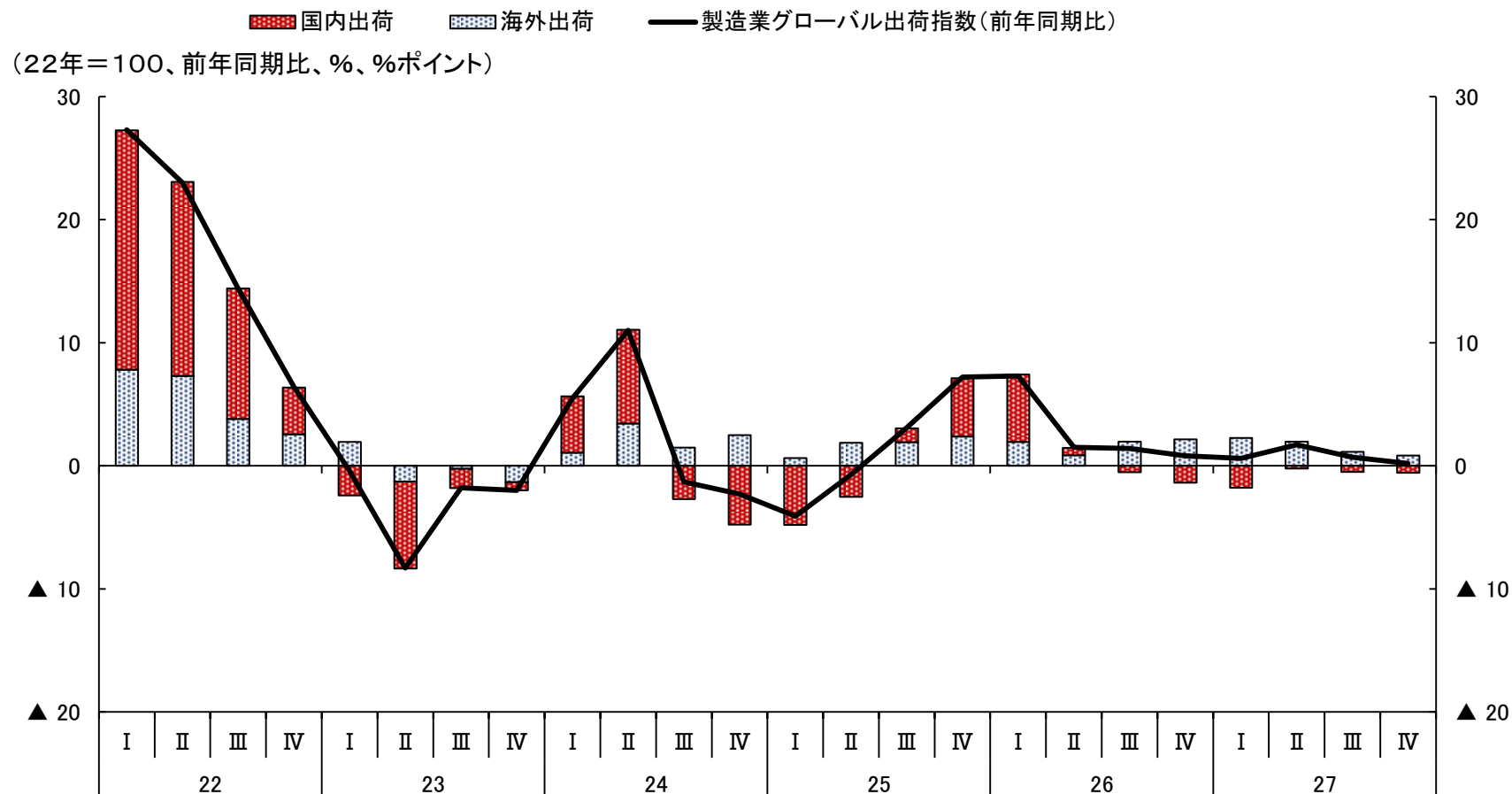
製造業グローバル出荷指数（原指数）の推移（総括表）

	26年度	26年	27年	
		10～12月期	10～12月期	前年同期比
グローバル出荷指数	104.1	105.5	105.7	0.2
国内出荷指数	97.6	98.5	97.7	▲ 0.8
国内向け	97.0	97.3	97.4	0.1
輸出向け	100.0	103.4	99.0	▲ 4.3
海外出荷指数	124.4	127.5	131.2	2.9
自国向け	125.6	128.5	134.7	4.8
日本向け	125.1	130.8	126.2	▲ 3.5
第三国向け	131.2	133.8	133.9	0.1
海外出荷指数	124.4	127.5	131.2	2.9
中国(含香港)	123.8	126.0	134.1	6.4
ASEAN4	113.3	116.9	115.0	▲ 1.6
北米	141.4	144.2	156.0	8.2
それ以外の地域	119.1	121.9	118.5	▲ 2.8

製造業グローバル出荷指数（原指数）の推移（前年同期比、内外寄与度）

27年Ⅳ期の製造業グローバル出荷指数は、前年同期比0.2%上昇で、あまり水準は伸びていない。

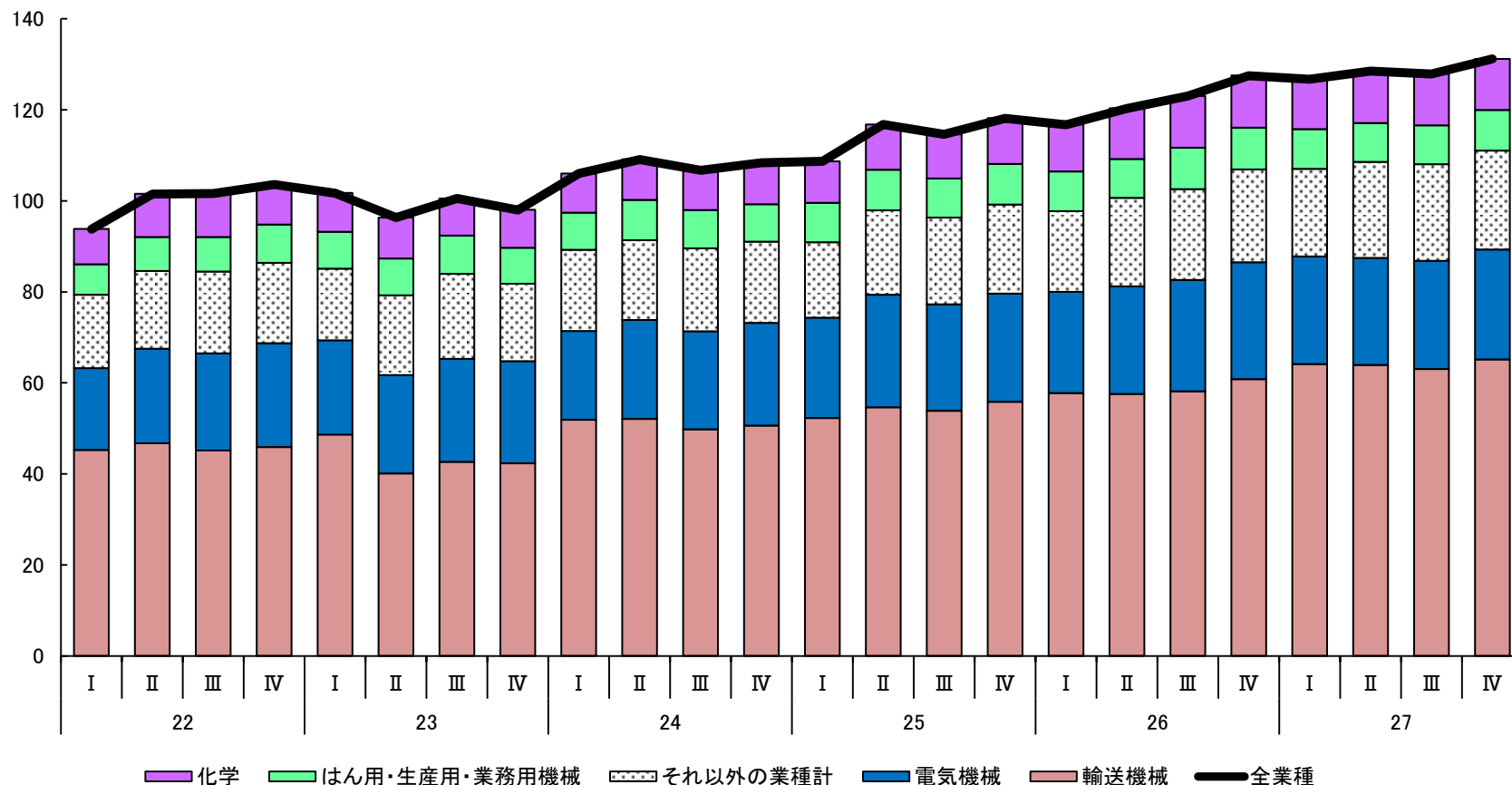
海外出荷の寄与は同0.8%、国内出荷の寄与は同▲0.6%。グローバル出荷の水準を支えていたのは、海外出荷だが、国内出荷が水準の重しになっていた。



海外出荷指数（原指数）の推移（業種別）

海外出荷指数においては、輸送機械の存在が非常に大きい。これに次ぐのが、電気機械。海外出荷指数に占めるそれぞれの割合は、輸送機械が49.6%、電気機械が18.4%となっている。

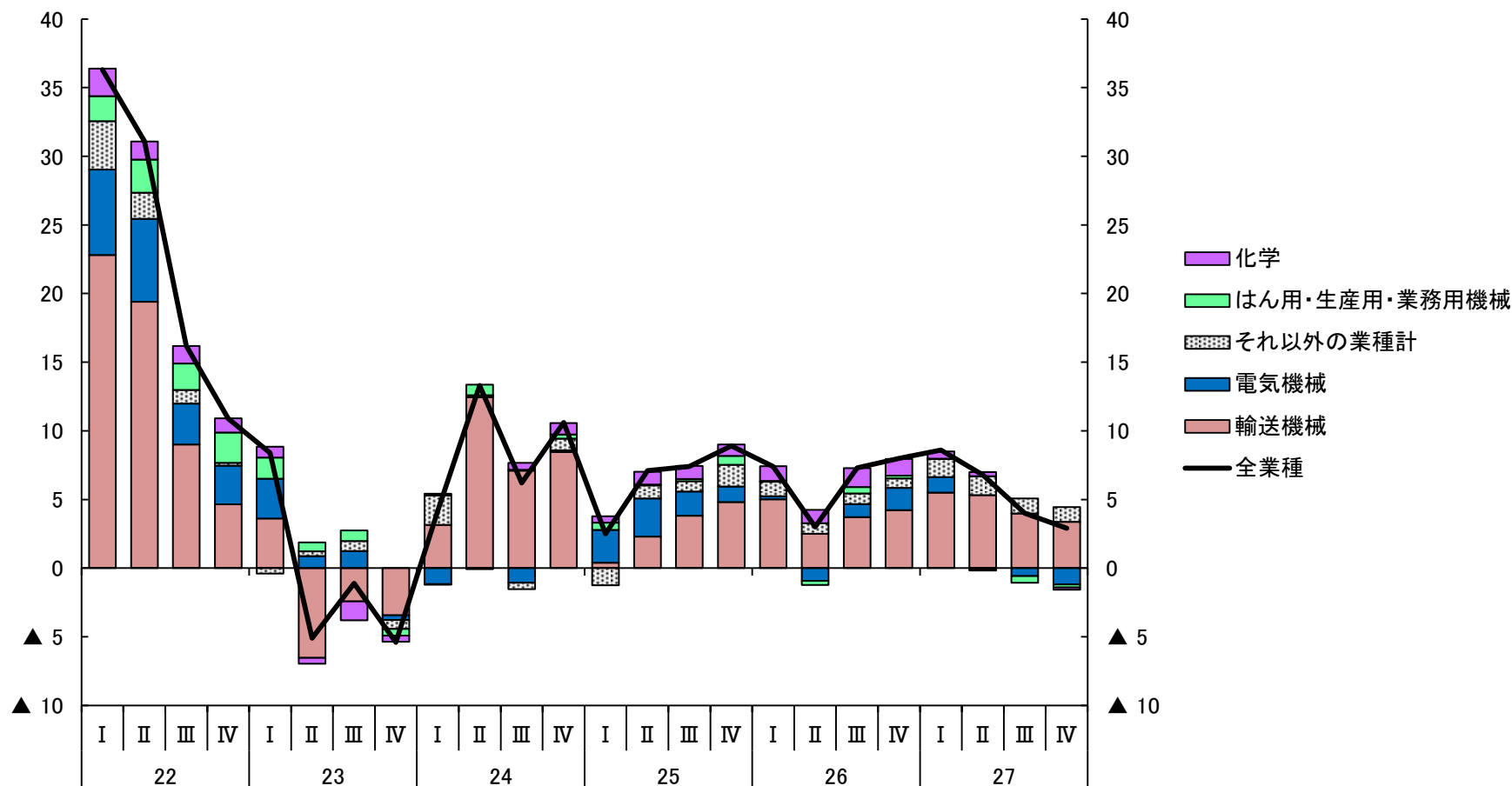
(22年=100)



海外出荷指数の推移（前年同期比、業種別寄与度）

海外出荷指数の前年同期比上昇に対し、やはり輸送機械が大きく寄与。
 海外出荷全体の前年同期比2.9%に対し、輸送機械が同3.37%の上昇寄与。
 電気機械が、3期連続で低下寄与。

（22年=100、前年同期比、%、%ポイント）



製造業出荷海外比率（品目ベース）、逆輸入比率、海外市場比率の推移

27年Ⅳ期の製造業出荷海外比率は29.8%となった。

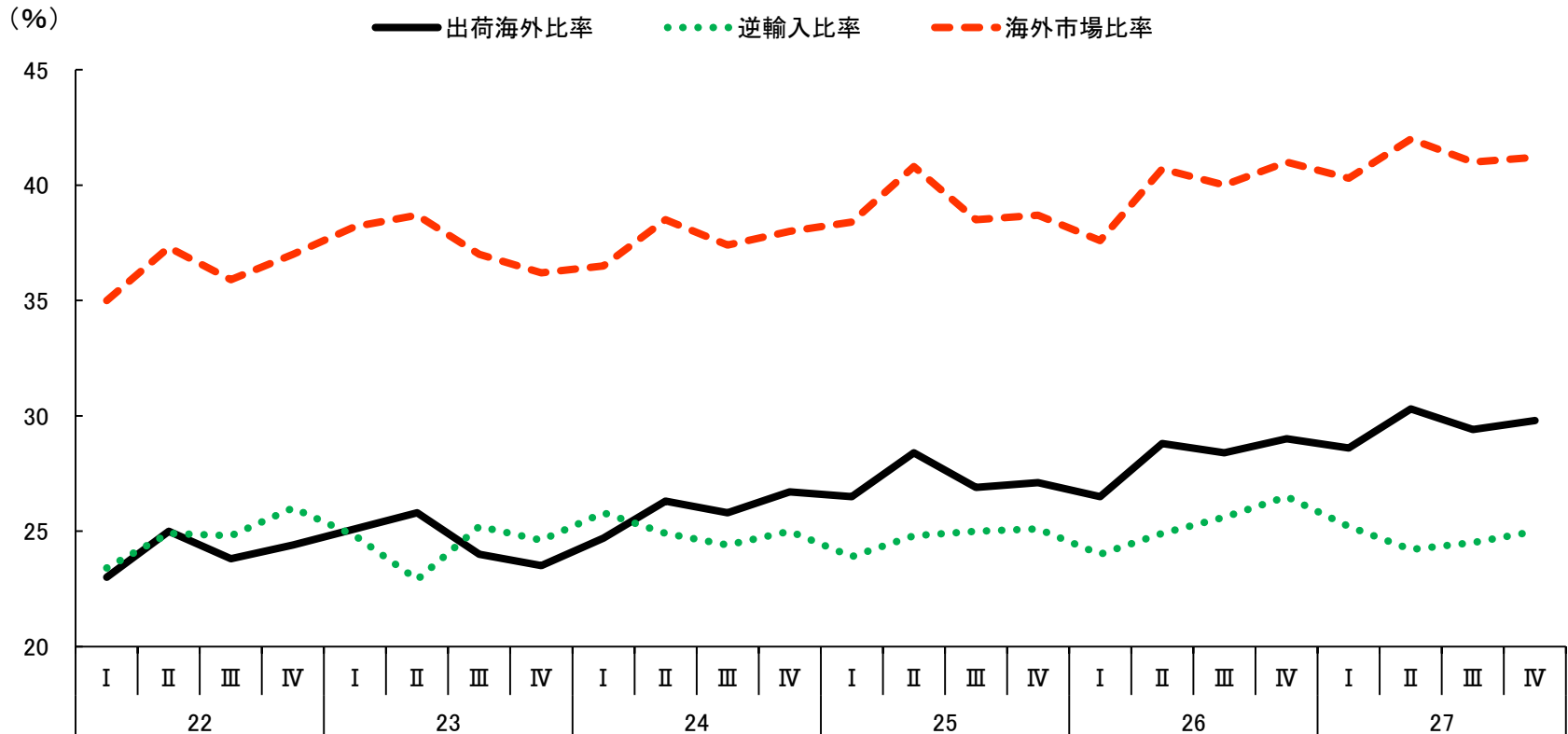
27年Ⅳ期の逆輸入比率は25.0%となった。

27年Ⅳ期の海外市場比率は41.2%となった。

注) 製造業出荷海外比率：日本国内の鉱工業の活動と日系現地法人の活動の比率

逆輸入比率：日本の輸入のうち、日系現地法人の日本向け輸出の割合

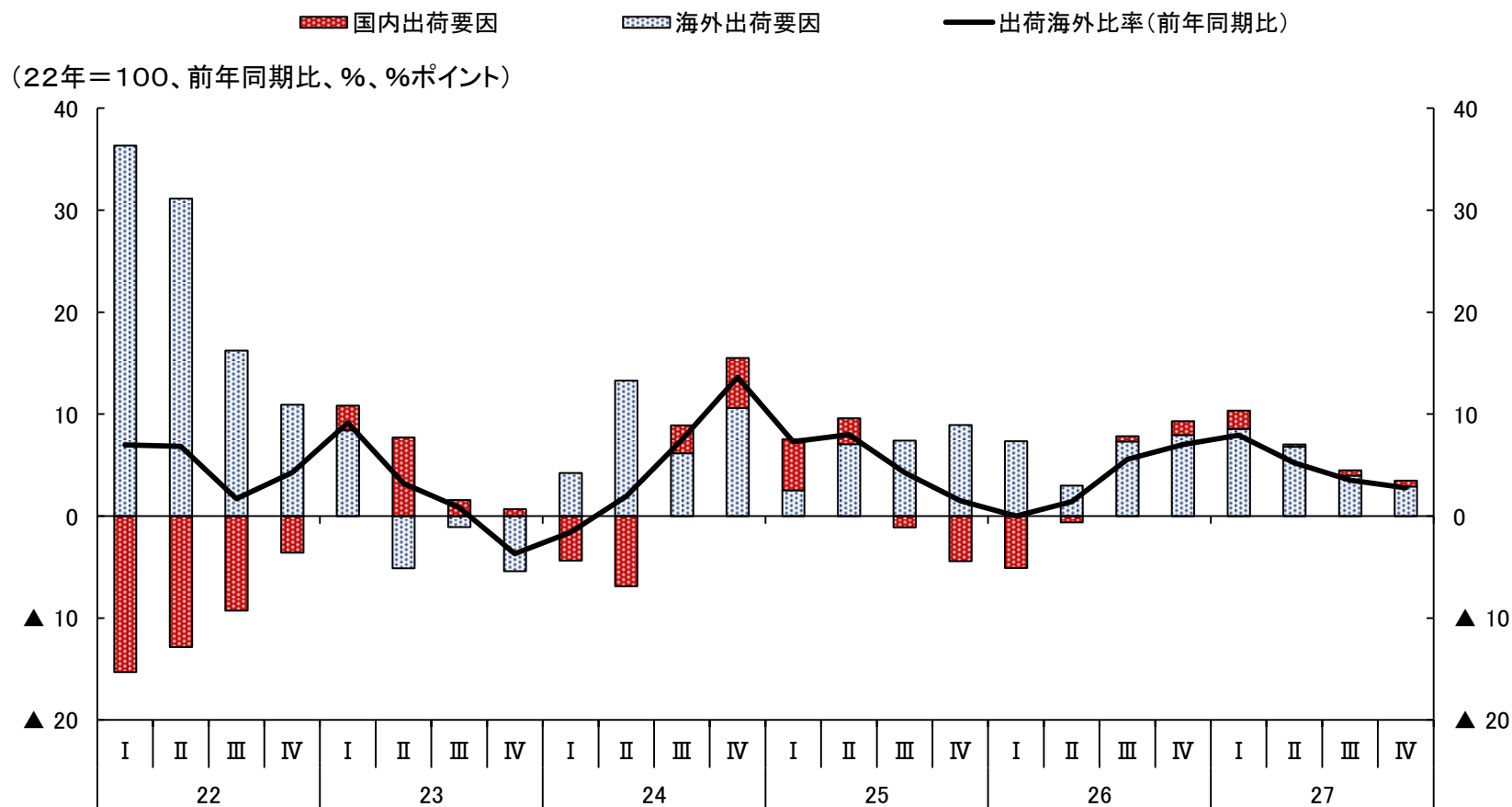
海外市場比率：グローバル出荷のうち、海外市場に出荷される割合



製造業出荷海外比率の変動要因分解

製造業出荷海外比率の前年同期比の上昇に対し、海外出荷の増加である「海外出荷要因」はプラス寄与。国内出荷の減少である「国内出荷要因」も若干のプラス寄与。

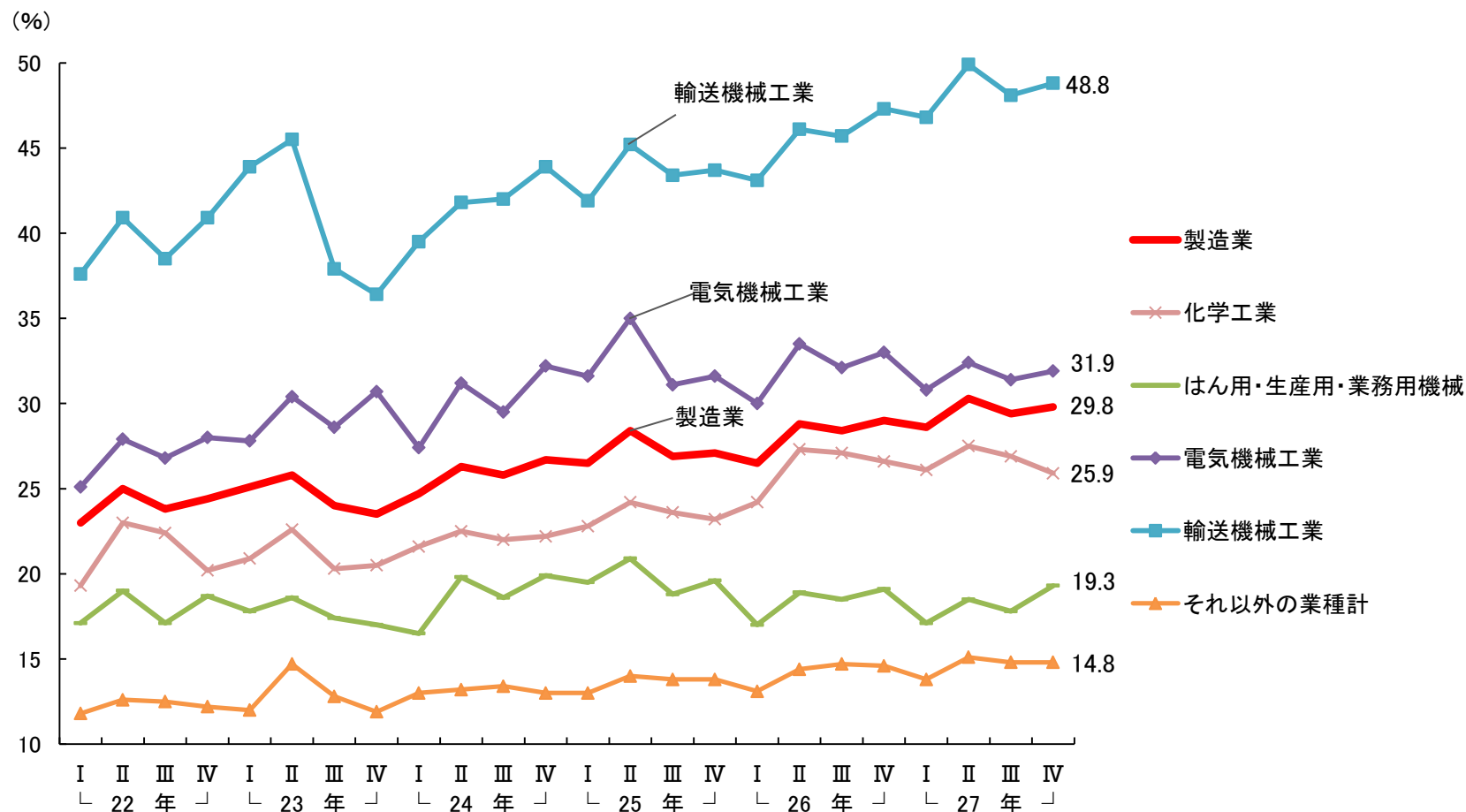
出荷海外比率の上昇は、引き続き海外出荷の増加によるもの。



業種別製造業出荷海外比率の推移

27年Ⅳ期の製造業出荷海外比率は29.8%。

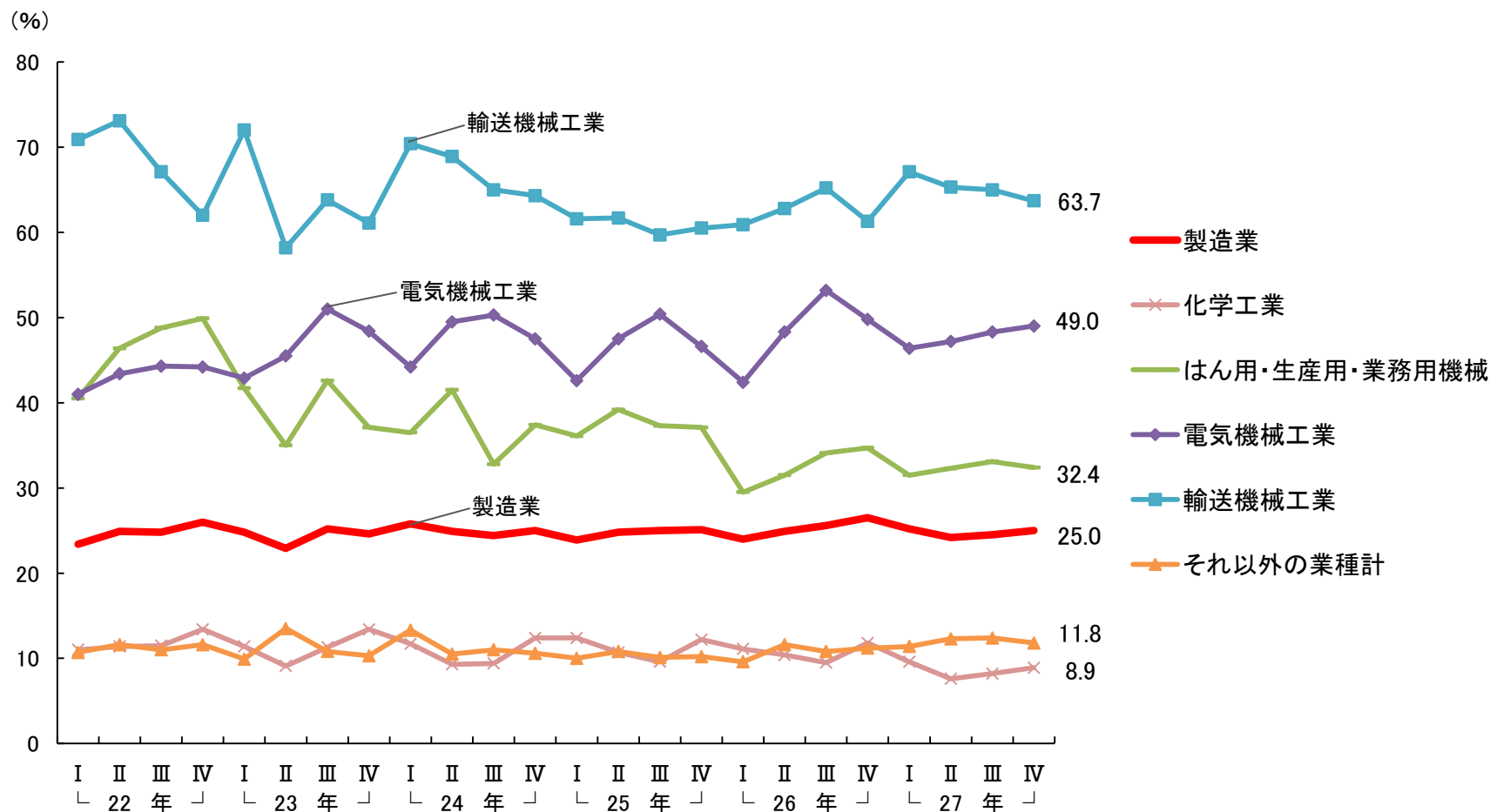
これを業種別にみると、全12業種のうち6業種が前年同期と比べて上昇し、5業種が低下、1業種が横ばいとなった。出荷海外比率が高いのは、輸送機械工業と電気機械工業。



逆輸入比率の推移

27年Ⅳ期の逆輸入比率は25.0%。

これを業種別にみると、全12業種のうち6業種が前年同期と比べて上昇し、6業種が低下となった。逆輸入比率が高いのは、輸送機械工業と電気機械工業。

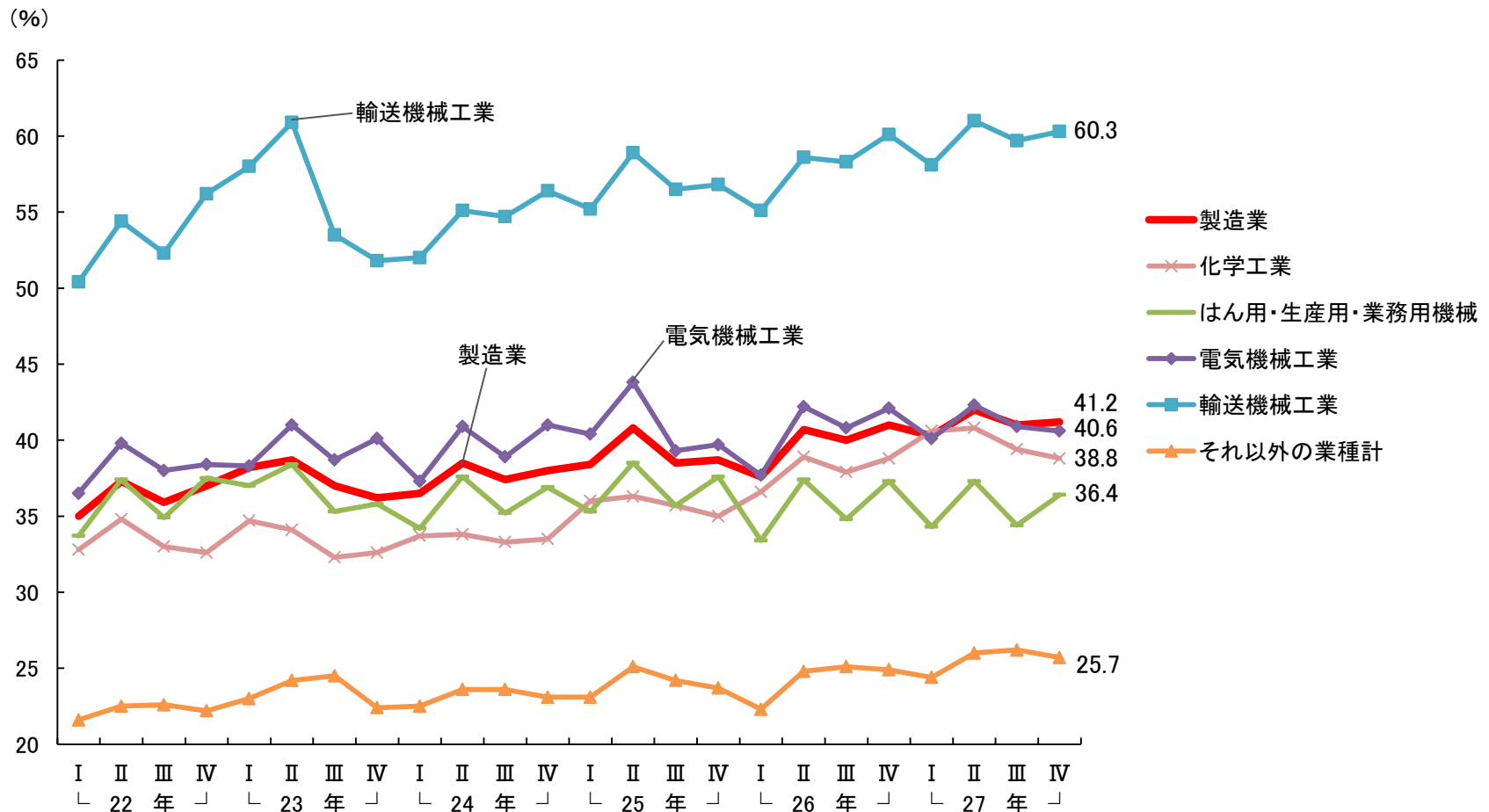


海外市場比率の推移

27年Ⅳ期の海外市場比率は41.2%。

これを業種別にみると、全12業種のうち5業種が前年同期と比べて上昇し、6業種が低下、1業種が横ばい。

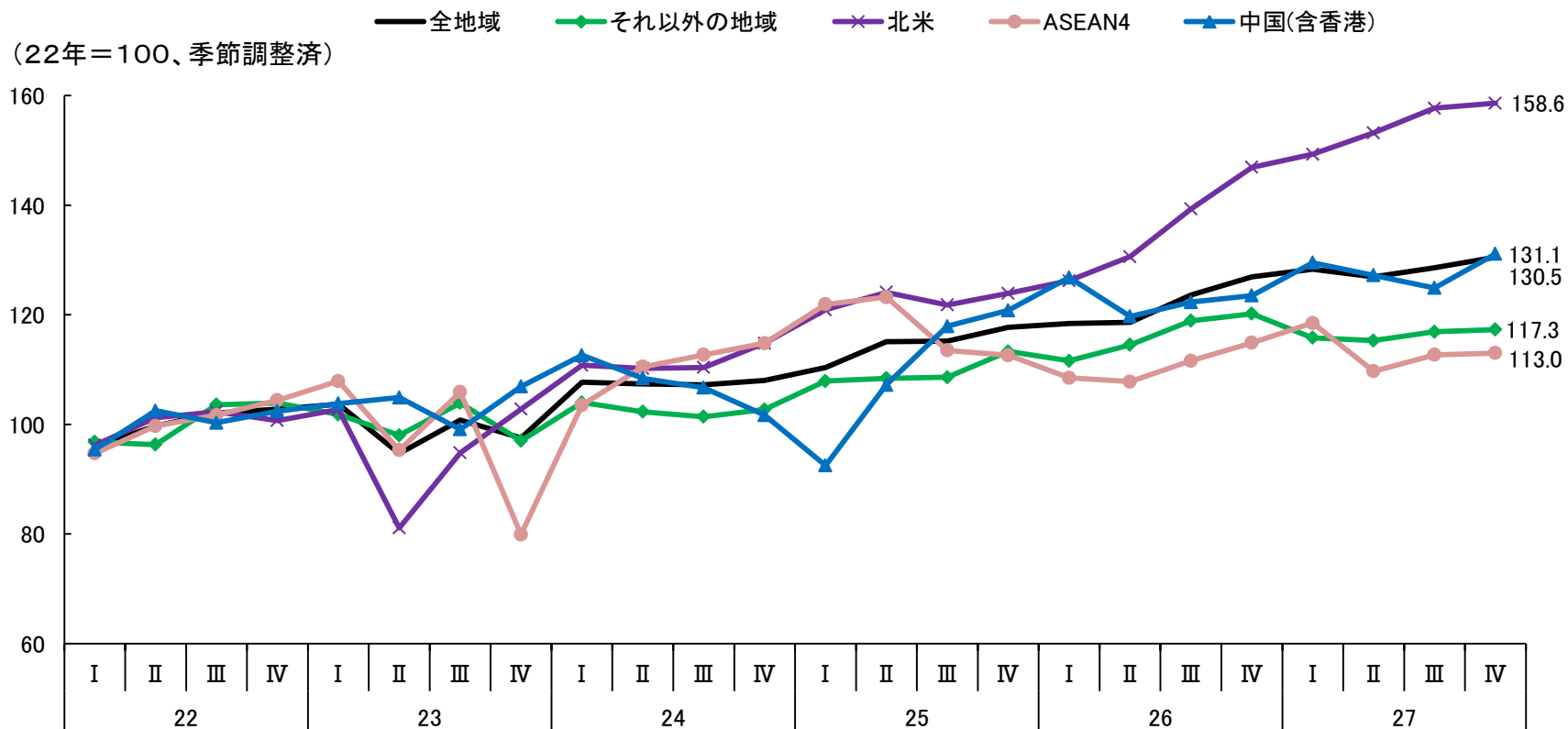
海外市場比率が、特に高いのは、輸送機械工業。



地域別海外出荷指数（季節調整済）の推移

27年Ⅳ期の全地域出荷指数は130.5となった。主要地域別の海外出荷指数のうち、北米（前期比0.6%上昇）、中国（同5.0%上昇）の上昇が目立つ。ASEAN4、「それ以外の地域」は横ばい。

27年Ⅳ期に、全地域と比較して指数が明らかに上昇していたのは、北米だけ。



※海外現地法人四半期調査の売上高と輸入価格指数（財務省貿易統計）を用いて主要地域別のグローバル出荷指数（季節調整済）を算出。

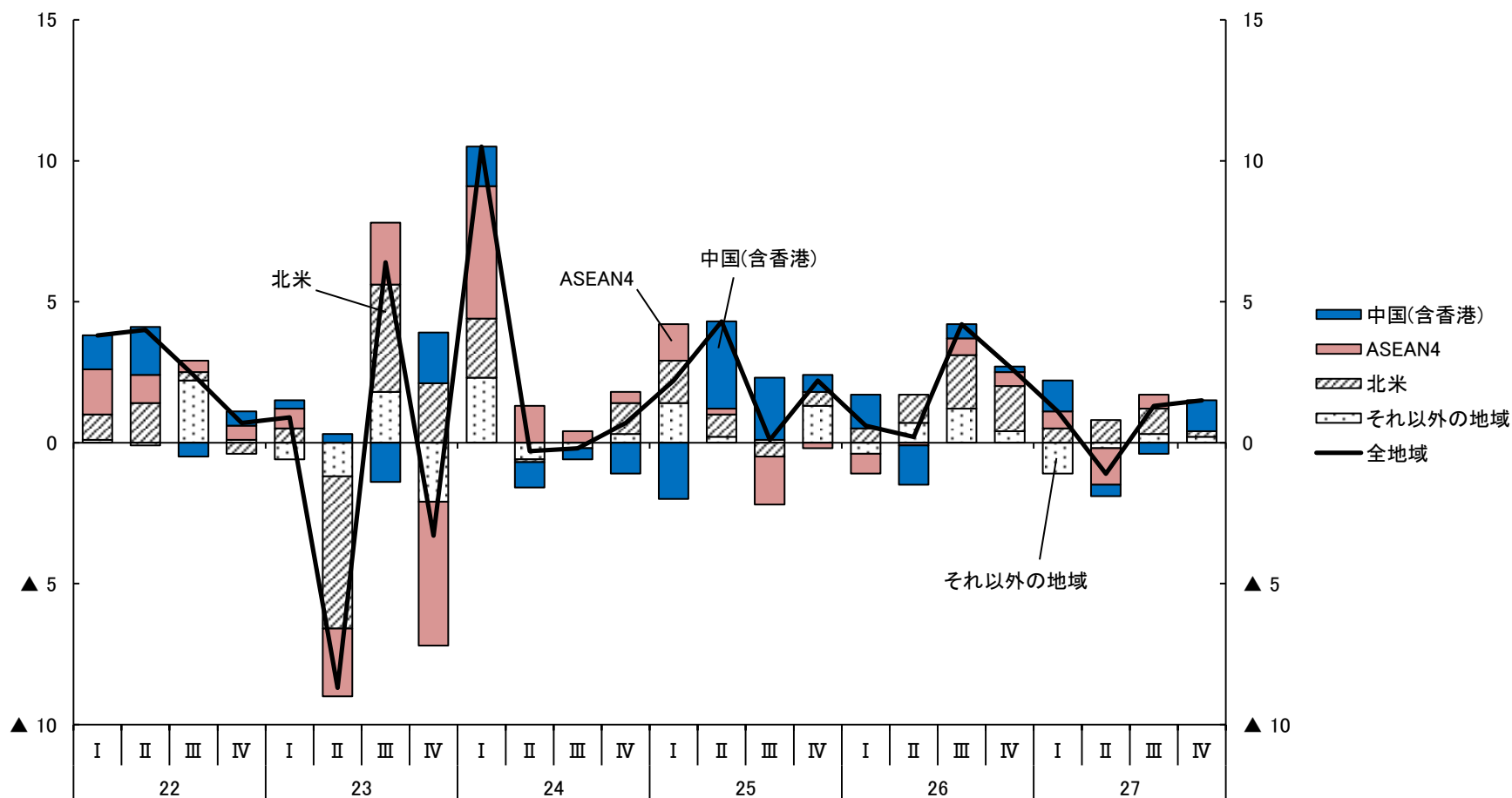
※地域の内容については、スライド21の「用語の説明」を参照のこと。

海外出荷指数の推移（前期比、地域別寄与度）

地域別海外出荷指数の前期比をみると、中国は3期ぶりのプラス寄与の一方、ASEANは横ばい寄与となっている。

北米は9期連続の前期比プラス寄与ではあったが、そのプラス寄与幅は縮小。

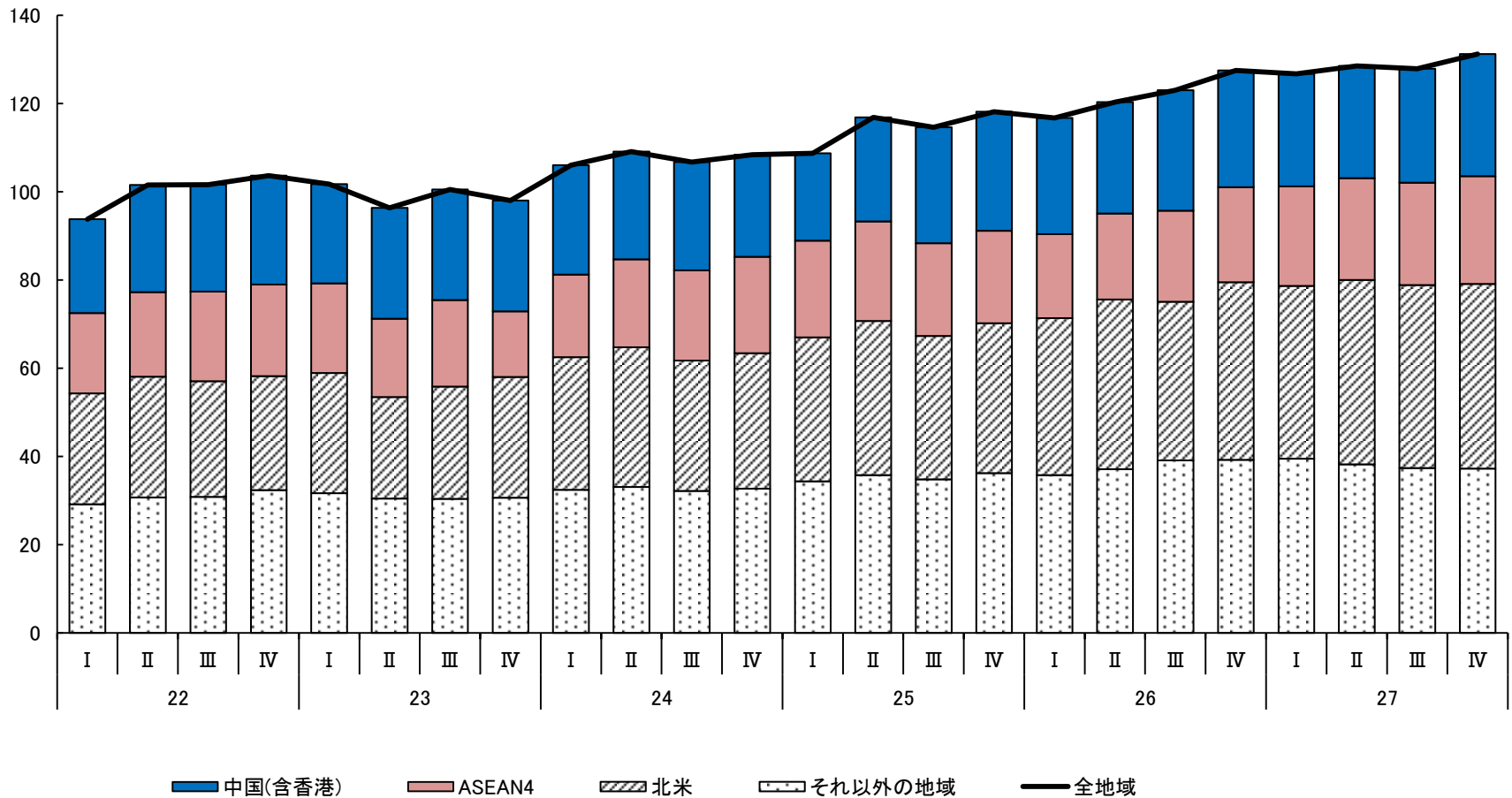
（22年＝100、季節調整済、前期比、%、%ポイント）



地域別海外出荷指数（原指数）の推移

27年Ⅳ期の地域別の内訳をみると、北米の割合が31.9%で、これに次ぐのが中国(含香港)で21.1%。
引き続き、北米からの海外出荷のウェイトが大きい。

(22年=100)

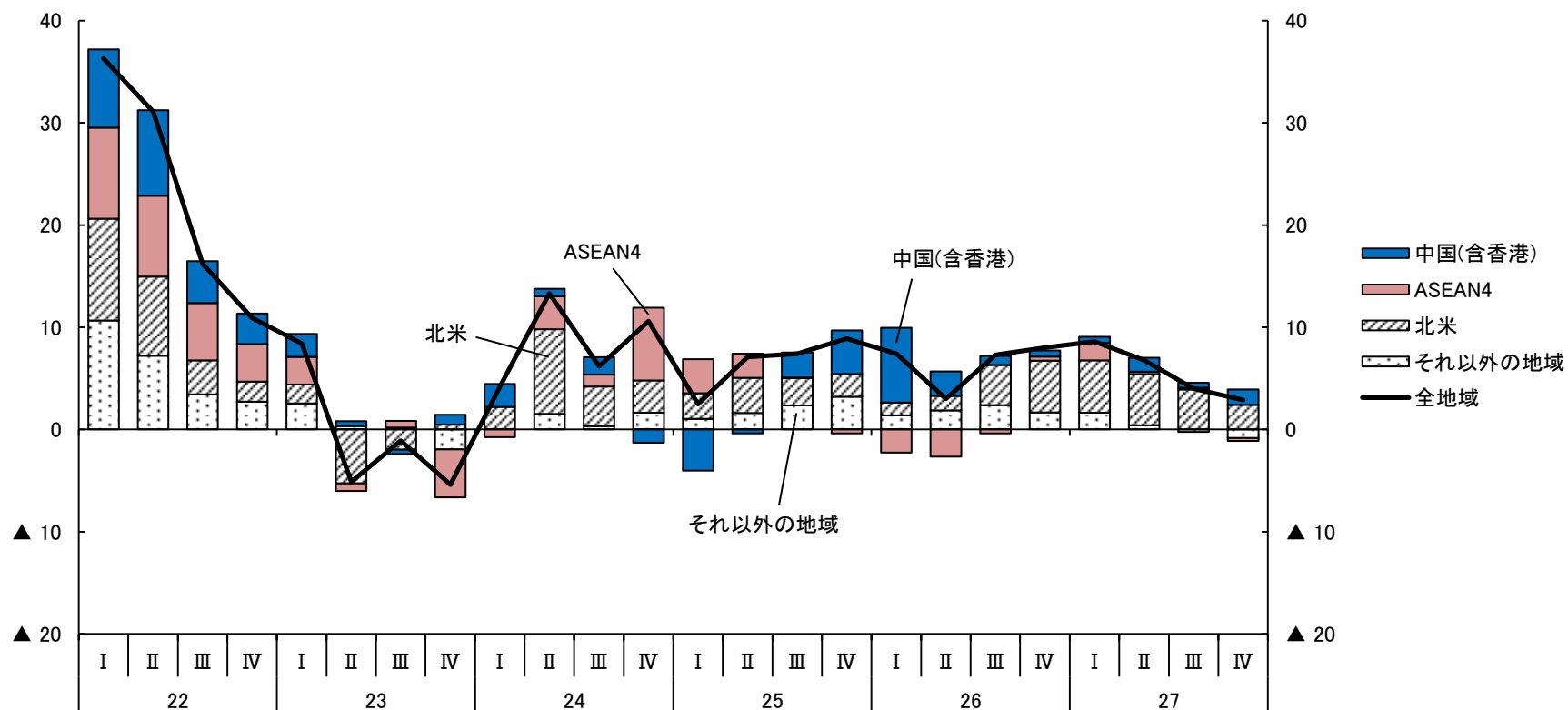


海外出荷指数の推移（前年同期比、地域別寄与度）

地域別海外出荷指数の前年同期比をみると、北米は17期連続、中国は10期連続のプラス寄与の一方、ASEANは5期ぶりのマイナス寄与となっている。

27年のIV期でも、安定的にプラス寄与の北米地域における現地法人の活動が「海外出荷」を支えていたことが分かる。中国も必ずしも水準が落ち込んだ訳ではない。

（22年＝100、前年同期比、%、%ポイント）



注意点

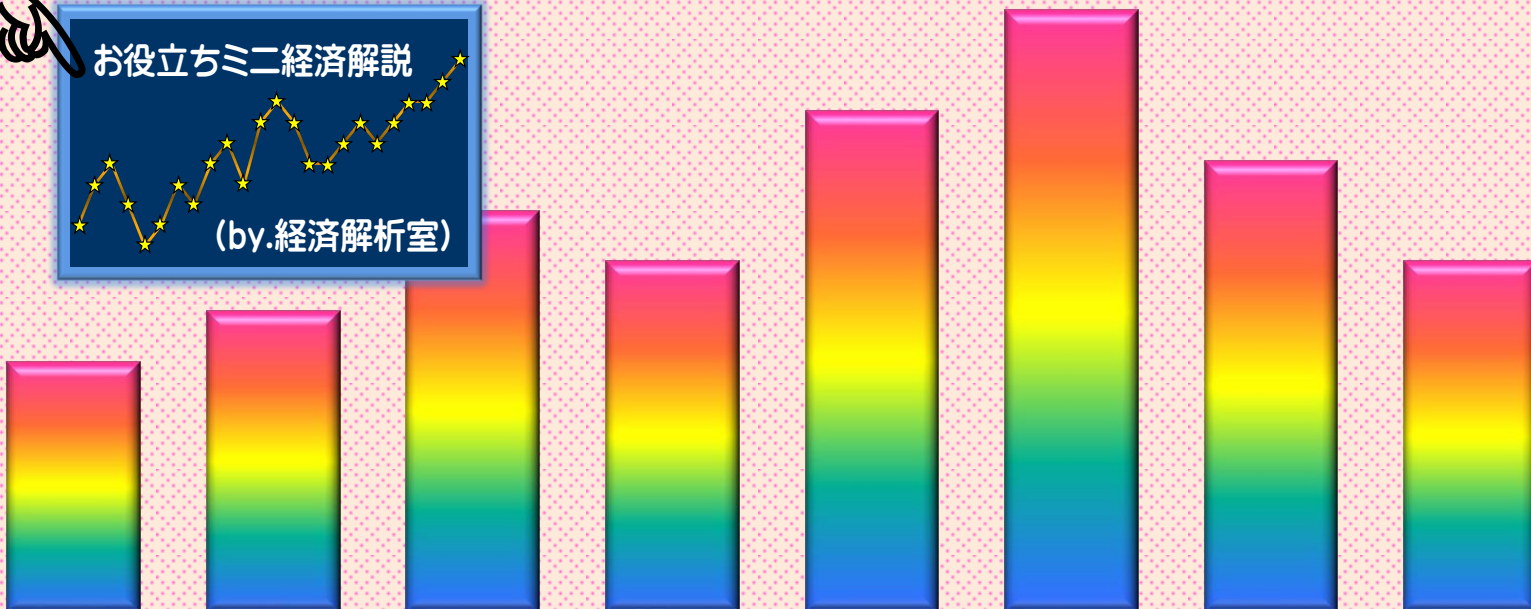
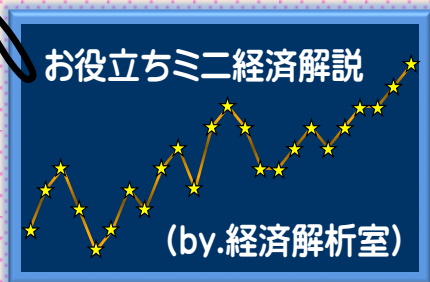
- 本資料の試算を行う際に、使用するデータ（海外現地法人四半期調査、鉱工業指数、日銀輸入物価指数）が速報値から確報値へ塗り替えられることなどに伴い、本資料の数字も前の四半期の数字から変わる。
- このため、「産業活動分析」や「ミニ経済分析」等の方法で過去に提供した、グローバル出荷指数の数値と、今回計算し直した数値には、違いが生じていることに留意。
- 年の表示は和暦であり、元号は特記しない限り原則として平成である。

用語の説明

- グローバル出荷指数における電気機械工業は、鉱工業指数における、電気機械、電子部品・デバイス工業、情報通信機械を合わせたものに相当する。
- 「それ以外の業種計」とは、次の8業種を組み合わせたものである。
「食料品・たばこ」、「繊維」、「木材・パルプ・紙・紙加工品」、「窯業・土石」、「鉄鋼」、「非鉄金属」、「金属」、「その他」
- 「それ以外の地域」とは、次の4地域を組み合わせたものである。
「NIES3」、「その他アジア」、「欧州」、「その他」

こちら是非御覧下さい！

- ◎ ミニ経済分析：色々なテーマあります
- ◎ お役立ちミニ経済解説：総合ポータルサイトです



お役立ちミニ経済解説、
ミニ経済分析、
動きで見る経済指標、
など